

雫石・小岩井農場の魅力増進のための企画・制作支援 —小岩井アート・プロジェクト—

人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）
ヴィジュアルデザイン研究室学生グループ

指導教員：教授 本村健太（人社・芸文）

序

生産農場を背景とする小岩井農場は、岩手県を代表する観光地である。国指定の文化財も21棟あるという。日本の酪農振興のために不毛の原野を切り拓いたこと、日本の馬事文化の礎となったこと、宮沢賢治が愛した土地であることなど、歴史的価値も非常に高い場所である。

小岩井農場は長らく国内の団体旅行中心に来場があったが、新型コロナの期間を経て個人旅行者やインバウンド旅行者の比率が高まってきている。交通手段は、大型バスからマイカーやレンタカーに変化し、家族やカップルでの来訪が中心となってきた。小岩井農場への来訪理由も、「有名な観光地である」ことから、「具体的に見たい・体験したいことがある」に変化している。現在、観光客にとっての明確な来場動機が必要な時代である。小岩井農場観光部としては、時代の変化に合わせた新たなコンテンツ作りや情報発信に課題を感じているという。課題解決の支援として、岩手大学の学生には若者の視点を活用して小岩井農場発の新たなコンテンツや魅力の発信を共に行うことが求められている。



図1：令和6年度の小岩井農場（ハロウィンイベント期間）

本研究課題については、前年度に株式会社東北博報堂の高橋栄人（さかと）さんを経由して相談を受け、ヴィジュアルデザイン（VD）研究室の有志（当時3年生：鎌田真緒、菊池百花、木村安里、長谷川桐子、村木小晴）がハロウィンイベント期間中の小岩井農場（図1）を訪問し、下見と打ち合わせを行っていた。



図2：『呪術廻戦』265話「あの日」に描かれた小岩井農場

小岩井農場においては、岩手県出身の漫画家である芥見下々（あくたみげげ）のダークファンタジー・バトル漫画『呪術廻戦』265話「あの日」の背景に描かれた箇所（図2）が複数あり、マンガ・アニメの人気作の「聖地巡礼」としての可能性も感じられた。

今年度の研究課題に関する岩手大学人文社会科学部のヴィジュアルデザイン研究室学生グループの取り組みについては以下に報告したい。

なお、卒業研究としては、鎌田真緒が「岩手県の魅力発信をテーマとする〈ごちゃ絵〉の制作研究」、菊池百花が「小岩井アート・プロジェクトに関するヴィジュアルアートの制作研究」、瀬川純令が「小岩井アートプロジェクトに関する制作研究」、長谷川桐子が「小岩井農場の魅力増進に関する制作研究」においてそれぞれ取り組んだ。

I. 本研究課題について

(実施計画・方法)

小岩井農場への個人旅行者やインバウンド旅行者を想定した来場動機をつくるために、小岩井農場や地元雫石町と連携して、岩手大学の学生による「小岩井アート・プロジェクト」として小岩井農場の魅力増進につながるような企画提案などを行う。

まずは、本研究計画に興味を持って関わる担当学生を複数集めてグループを形成して、卒業研究、または関連分野の体験学修としての枠組みを明確にしていく。この学生グループを中心に、小岩井農牧株式会社観光部の大西智子さんをはじめ、小岩井農場の関係者と協議を行いつつ、具体的な実施内容の詳細を詰めていくことにする。

具体的な内容については、協議によって明確にしていくが、主要課題として秋のイベントにおけるコンテンツづくりを想定する。秋のハロウィンイベントは全国的に盛り上がっているが、小岩井農場でも秋のコンテンツがより話題になり、この地域の価値が伝わるようになることを目指してアート思考・デザイン思考によって発想・提案する。ハロウィンテーマ

令和7年度地域課題解決プログラム

としたイベントや・施設演出・農場産カボチャの活用など、小岩井農場との共同作業を行う。また、その他のイベントにおけるアイデアなどの提案も行う。

○方法

関係者間で協議し、令和7年度の研究課題においては、大きく次のような内容で行うことを計画した。

1. ハロウィンイベント期間に来場者を迎えるフォトスポットの制作
2. その他のPR活動に関する企画・提案

以下に、今年度における研究活動の経過について報告する。

II. 今年度における研究活動の経過について

(結果・考察)

○検討会議

- ・令和7年6月15日(日)小岩井農場まきば園にて

小岩井農場まきば園内のフォトスポットの会場を視察するとともに、今年度の研究課題について検討した。(図3)

参加学生は4年生：鎌田真緒、菊池百花、瀬川純令、長谷川桐子、3年生：麻生菜央、金田一ななほ、金野愛里、大和田美咲、佐藤明日香、柚澤友梨、坂下愛実、2年生：大森美槻、田口結梨の13名(引率：本村健太)であり、小岩井農牧株式会社の長沼淳部長さん、大西智子さん、土橋葉月さん、東北博報堂の高橋栄人さん、蛇口哲志さんとともに研究課題の打ち合わせを行った。



図3：小岩井農場まきば園での下見と打ち合わせ

○フォトスポット用小物(新聞紙アート)の制作

- ・岩手大学芸術棟 視覚文化演習室および基礎実習室にて

令和7年度地域課題解決プログラム

小岩井農場まきばのホールでの共同制作となるフォトスポットの構想を練る間に、学生の個人制作として「新聞紙アート」の小物制作を行うことにした。

その際に、参考としたのは下記のサイト情報である。

新聞紙ぐるみ：

Kaori-itou「モコモコゆかいな新聞紙ぐるみ～針や糸のいらない製作あそび～」

<https://hoiclue.jp/500123837.html>

布粘着テープと新聞紙：

Nitto「企画展 第19回 夏休み自由研究 布粘着テープと新聞紙で夏の思い出をつくろう！」

<https://www.nitto.com/jp/ja/tapemuseum/special/vol19>

新聞紙と着彩（新聞紙アート）：

なんめんよしこ「新聞紙アート」

<https://sinbunsifukurou.jimdofree.com/新聞紙アート/>

新聞紙アートとしての小物制作は小岩井農場のフォトスポットに設置することを意識して、各自で自由に制作した。（図4）まず新聞紙を丸めて布テープで固定しながら形をつくり、それができれば色紙かアクリル絵の具で着彩した。（布テープで絵の具がはじくのを防ぐために、白いジェッソを塗布しておく。）





図4：フォトスポットのための新聞紙アート制作（事例）

○小岩井アート・プロジェクト：フォトスポットのアイデア決定

6月15日の打ち合わせにおいて、フォトスポットで写真撮影したものが、広告などの「メインビジュアル」として使用でき、人々を魅了するようなものになることを目指す、学生の現地制作も「小岩井アート・プロジェクト」として公開することが確認されていた。

そのためにフォトスポットとして学生たちが共同制作する「オブジェ」の原案（図5）を提出して学生間で最終案（図6）を検討した。

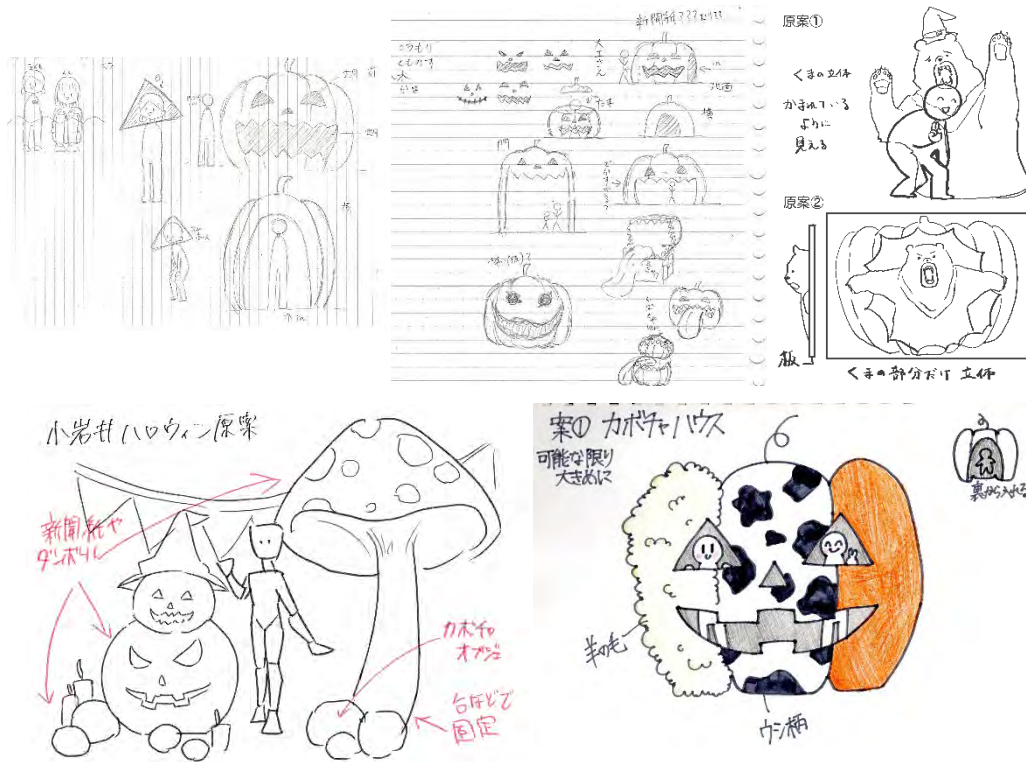


図5：フォトスポットのためのオブジェ案
（原案：檜垣晶帆、田口結梨、長谷川桐子、瀬川純令）



図5：オブジェ案最終決定（制作：鎌田真緒）、小岩井農場公式サイトからの発信
 ○フォトスポット用オブジェ「うしかぼちゃ」の共同制作 1回目

・令和7年8月26日（火）小岩井農場まきばのホールにて

4年生：鎌田真緒、瀬川純令、長谷川桐子、村木小晴、3年生：金田一ななほ、2年生：田口結梨、大森美槻の学生7名（引率：本村健太）が参加した。

最終案の実現のために、（外部委託により）透明のテントをポリ塩化ビニルのパイプで補強してもらい、それを基礎にして、参加学生が新聞紙を丸めて肉付けしていった。



図6：基礎となるテントの骨組み、令和7年8月26日の作業の様子

令和7年度地域課題解決プログラム

初日には、新聞紙アートの経験により、協力し合いながら、「新聞紙玉」を固定することで、なんとか立体的な形状を作り出していくことができた。（図6）

しかしながら、後日、小岩井農場の大西さんからの報告で、初日に作業した肉付けの大部分が崩落したこと（図7左）が分かり、参加者の努力が残念ながら報われずに落胆することになってしまった。未経験の活動を現場で手探りしながら行うことになったために、ある程度の失敗は予想されていたが、ここまでは想定していなかった。そこで、指導教員の本村教授が関係者間に生じた不安感の払拭とフォトスポットの完成イメージの共有のために、生成AIのGeminiを使ってフォトスポット完成の様子（図7右）を作成した。



図7：テントから崩落した新聞紙玉、生成AIによるフォトスポット完成のイメージ

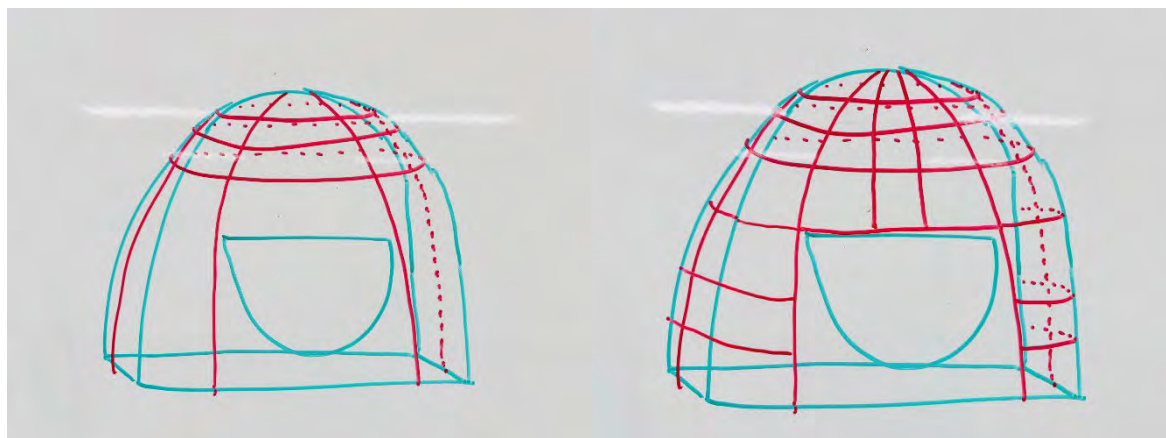


図8：「新聞紙棒」を作って上部に輪をいくつかかけ、縦方向にも伸ばして網目状にする方法

また、改善策を検討し、2年生の田口結梨の発案により、「新聞紙玉」ではなく、まずは「新聞紙棒」を作って基礎を作ることにした。本村教授より、まずは上部に新聞紙棒の輪をいくつかかけ、下に落ちない構造を作り、それに縦方向にも新聞紙棒を伸ばして縦横も網目状にする方法が提示された。（図8）

○フォトスポット用オブジェ「うしカボチャ」の共同制作2回目

・令和7年9月16日（火）小岩井農場まきばのホールにて

4年生：鎌田真緒、菊池百花、瀬川純令、長谷川桐子、3年生：麻生菜央、大和田美咲、金田一ななほ、金野愛里、佐藤明日香、柚澤友梨の学生10名（引率：本村健太）が参加した。

今回は前回の失敗を挽回すべく、参加者全員が一丸となって作業にとりかかった。

令和7年度地域課題解決プログラム



図9：新聞紙棒での構造化から肉付け、令和7年9月16日の作業の様子

改善策が功を奏し、新聞紙玉が崩落することなくデザイン案の概形を作ることができ、参加者全員が手ごたえを感じ、安堵することができた。（図9）



図10：形の完成とシーラーの塗布まで、令和7年8月26日の作業の様子

令和7年度地域課題解決プログラム

○フォトスポット用オブジェ「うしカボチャ」の共同制作 3回目

・令和7年9月22日（月）小岩井農場まきばのホールにて

4年生：大和田美咲、菊池百花、木村安里、瀬川純令、長谷川桐子、3年生：金田一ななほ、金野愛里、柚澤友梨、古舘幸京、坂下愛実の学生10名（引率：本村健太）が参加した。

3回目の共同制作では、次回が最終回になることを意識して、形状を完成させるとともに、塗料がはじかないように布テープの上にシリコン樹脂のシーラーを塗布するところまで進めることにした。また、塗料の状態を確認するため、目の部分だけを黒で塗ってみた。（図10）

小岩井アート・プロジェクトとしては、「アーティスト・イン・レジデンス」のように、作家が現地で制作する様子も公開することにしていたため、来場者に見られながらの作業であったが、形ができあがってくると好意的な声も多く聞くことができるようになり、励まされることになった。休憩時間に小学生グループの記念撮影の要望があり、対応した。（図10, 11）



図11：現地で作業しているところも来場者に公開（小岩井農場まきばのホール）



図12：「うしカボチャ」の仕上げ作業、令和7年8月29日の作業の様子

○フォトスポット用オブジェ「うしかボチャ」の共同制作 4回目（最終回）

・令和7年9月29日（月）小岩井農場まきばのホールにて

4年生：鎌田真緒、菊池百花、瀬川純令、長谷川桐子、3年生：麻生菜央、大和田美咲、金野愛里、佐藤明日香、柚澤友梨、古舘幸京、坂下愛実、2年生：大森美槻様の学生12名（引率：本村健太）が参加した。

最終回となるため、デザイン案の色彩に従って着彩の仕上げ作業を行った。限られた時間のなかでの作業となるため、塗料の乾き具合をみながら計画的に進めていった。この一連の作業を協力し合い、全員で時間内に終了することができた。（図12）

作業が完了した直後に、親子連れに撮影してもらうことができた。当初の想定通りに、ハロウィンイベント期間の来場者にこの「うしかボチャ」のオブジェをフォトスポットとして楽しんでもらうことが実現したことを確認した。（図13）



図13：フォトスポットの完成（小岩井農場まきばのホール）

共同制作としてのオブジェ「うしかボチャ」の周辺には事前に制作していた新聞紙アートの小物も展示した。（図14）記念撮影に役立つように、一部は触ってもよいものとしていた。

（制作：瀬川純令、長谷川桐子、大和田美咲、佐藤明日香、柚澤友梨、田口結梨、大森美槻、檜垣晶帆）



図14：フォトスポット周辺の新聞紙アート

そうして、共同制作の「牛カボチャ」は、小岩井農場のハロウィンイベント期間中にフォトスポットとして活用された。大学からの情報発信や報道などは以下の通りである。

岩手大学の学生たちが小岩井農場のフォトスポットを制作しました！（岩手大学）

<https://www.iwate-u.ac.jp/info/event/2025/10/006974.html>

令和7年度地域課題解決プログラム

来て見て！巨大カボチャの学生アート

岩手大生×雫石・小岩井農場、テーマはハロウィーン

<https://www.iwate-np.co.jp/article/2025/10/7/187186>

(岩手日報、2025年10月7日) [会員限定]

ハロウィーンいつもと違うシ！！

岩手大生がオブジェ制作 岩手・雫石の小岩井農場

<https://kahoku.news/articles/20251009khn000050.html>

(河北新報、2025年10月10日) [有料記事]

○卒業研究としての個々の成果

以下に、個人の卒業研究としてさらに検討し、提案・制作したものを掲載する。

鎌田真緒「岩手県の魅力発信をテーマとする〈ごちゃ絵〉の制作研究」



図 15：小岩井農場をテーマとする「ごちゃ絵」

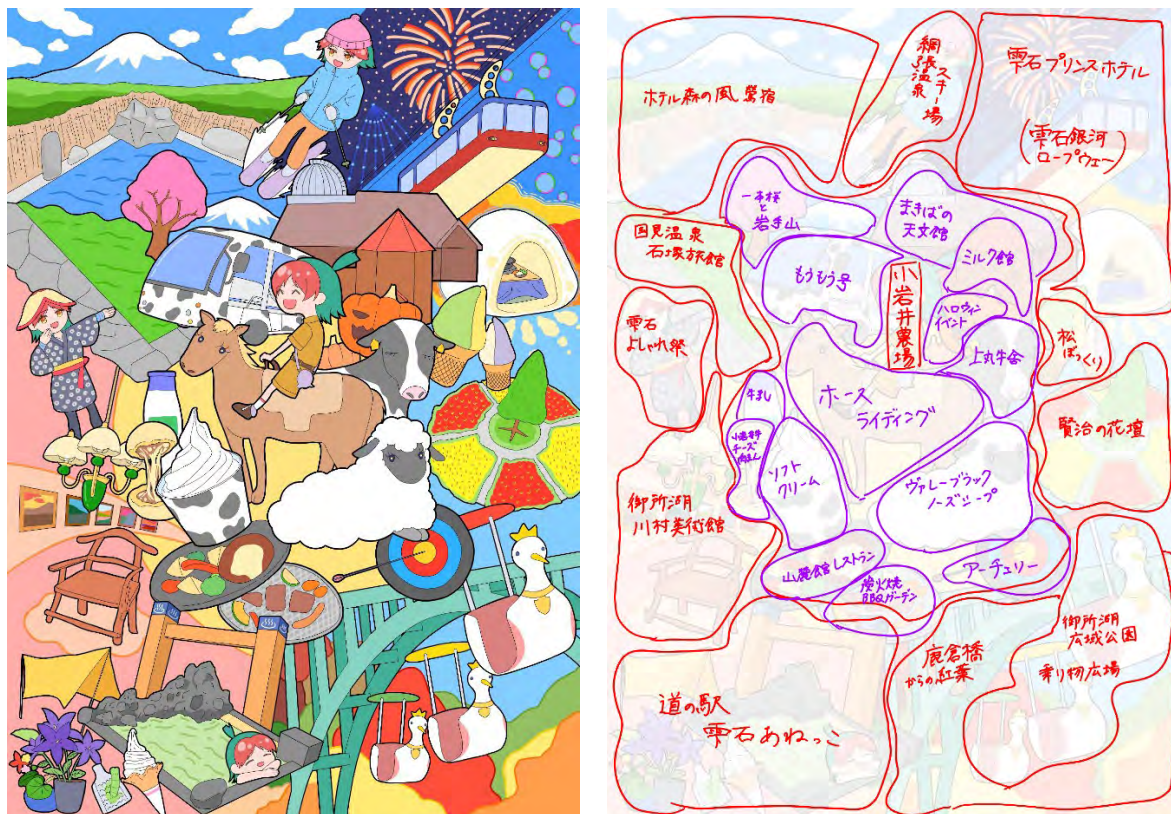


図 16：雫石町モチーフの「ごちゃ絵」

「ごちゃ絵」とは、ごちゃごちゃした絵であり、一画面にモチーフや線、色のような情報を数多く散りばめる手法のことである。多くの魅力を一度に届けるごちゃ絵という表現方法が、地域の魅力発信にも活かせるのではないかと考え、見た人の記憶に残り、岩手のこれまで知らなかった場所に足を運びたいくなるような「一枚絵で見る観光雑誌」なる作品を制作することとした。（図 15, 16）

菊池百花「小岩井アート・プロジェクトに関するヴィジュアルアートの制作研究」



図 17：牛カボチャ アクリルキーホルダーの使用例



図 18 : 牛と羊 アクリルキーホルダーの使用例



図 19 : チェキ風牛と羊 アクリルキーホルダーの使用例

いつでもどこでも簡単に SNS 映えする写真を撮ることができる「持ち運べるフォトスポット」としてアクリルキーホルダーを制作した。これらのアクリルキーホルダーは、片手でスマートフォンを持ち、また片手でキーホルダーを持って撮影する想定であり、いつでもどこでも特別なフォトスポット体験ができるよう、ボールチェーンをつけ持ち運びやすくした。(図 17, 18, 19)

瀬川純令「小岩井アートプロジェクトに関する制作研究」



図 20 : みるちゃん・あい



図 21 : ホラーヴィジュアルデザイン制作

制作したドール人形（図 20）は、小岩井農場のマスコットキャラクターである「ソフト牛」と「ミルクィ羊」がモデルである。ホラーヴィジュアルデザインの制作（図 21）では、小岩井農場の子ども向けの楽しい雰囲気から一新して、子ども向けから年齢層が上がったヴィジュアルデザインに仕上げるように試みた。

図 21・左の作品では、人形の少女と牛・羊の獣人がお客様を出迎えているとイメージして制作した。また、図 21・右の作品では、「Happy Halloween」を血文字のように筆記し、恐怖感を引き立て、洋画のホラー映画にありそうなイメージで薄気味悪さを演出した。

令和7年度地域課題解決プログラム

オリジナルキャラクターの制作（図 21）では、小岩井農場で販売されているソフトクリームと牛を掛け合わせたデザインとした。親しみやすく愛らしい印象を与えるキャラクターにするため、等身を低く設定し、表情を豊かにすることを意識した。

オリジナルキャラクターの活用例の提案（図 22）として、オリジナルキャラクターを使用した LINE スタンプを制作した。絵柄は全部で 16 種類となる。「よろしく」「ありがとう」「おつかれ」「ごめんなさい」などの基本的な会話表現に加え、オリジナルキャラクターの可愛らしさを強調した会話表現のない絵柄も制作した。小岩井農場のゆったりとした雰囲気を感じさせるようなデザインと、素直でポジティブな感情表現をするキャラクターによって、使いやすいスタンプになるように意識した。

○卒業制作展での成果公開

上記に紹介した卒業研究は、図 23 のように岩手大学 人文社会科学部 人間文化課程 芸術文化専修プログラム 卒業制作展「flapping」（岩手大学図書館アザリアギャラリー、2026 年 2 月 12 日～17 日）にて展示した。



図 23：岩手大学図書館アザリアギャラリーにおける展示風景

○小岩井農牧株式会社の大西智子さんよりコメント

このたびは「小岩井アート・プロジェクト」にご参加いただき、誠にありがとうございます。弊社では、時代の変化に合わせた魅力ある新たなコンテンツ作りや情報発信に課題を感じており、若者の視点を活用した課題解決をお願いしたところであります。

検討会議では、小岩井農場が抱える課題を解決するべく、固定観念にとらわれない自由な発想を伺うことができました。また、学生の皆様の社会課題に対する意識の高さも感じました。

豊かな発想力と真摯な制作姿勢により完成したオブジェは、小岩井農場に新たな価値と魅力をもたらし、お客様に笑顔をもたらしてくれました。

まきば園の2025年10月の年代別来訪者割合を調査したところ、2024年より10代・20代の割合が増加しており、Z世代向けのイベントが成功したと言えます。今回の産学連携は学生参加による社会実装を行う「実践的な学び効果」だけではなく、観光客の獲得・満足度向上という「観光客の集客効果」も獲得できました。感謝申し上げます。

多様な価値観や考えを持つ皆さまと交流することにより、私どもにとっても多くの気づきと学びを得る貴重な機会となり、大変意義深いものとなりました。アートと観光をつなぐ実践については、本村先生のご指導のおかげと認識しています。

皆さまにとっても、本プロジェクトでの経験が、今後の実社会での学びや創作活動の一助となれば幸いに存じます。

末筆ながら、皆様の今後ますますのご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに、弊社としては継続的な地域実装モデルを構築したいと考えており、ご縁がございました際には一緒できることを楽しみにしております。

[謝辞]

本研究プロジェクトに関して、小岩井農牧株式会社の大西智子さん、株式会社東北博報堂の高橋栄人さんをはじめ、小岩井農場の皆様にはたいへんお世話になりました。心より御礼申し上げます。